

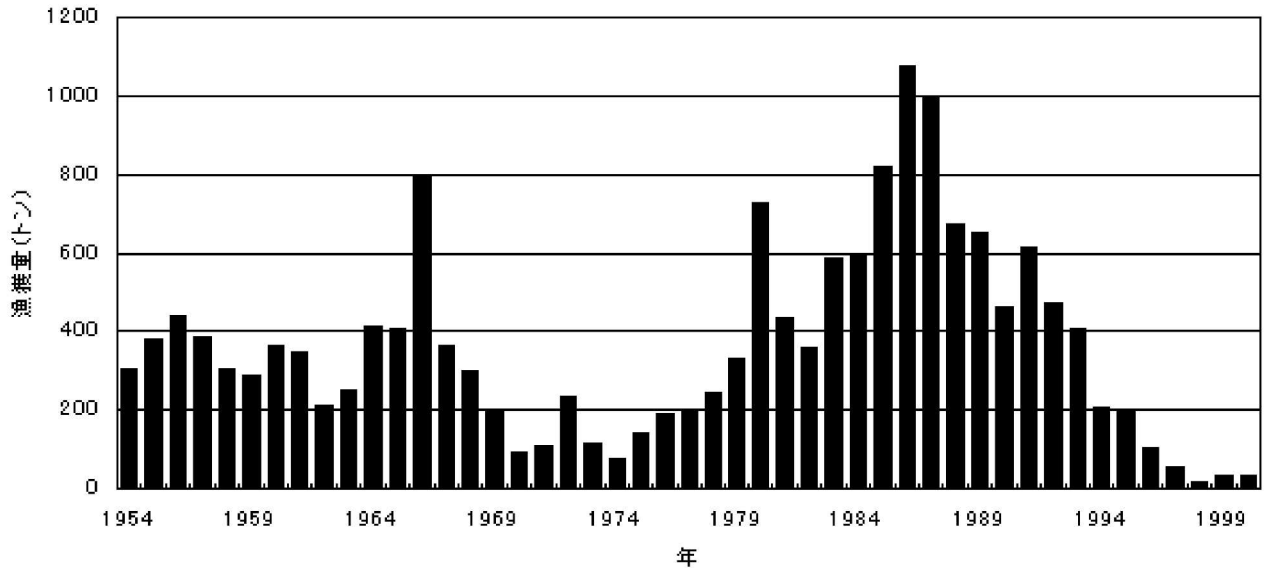
サワラ調査、最前線！

竹森弘征 主任研究員(環境資源部門)

サワラ漁獲量の推移

香川県ではサワラは主に流しさし網という漁法で漁獲されるが、その漁獲量は1986(昭和61)年の1,075トン进行ピークに、その後著しく減少し、1998(平成10)年には17トンにまで落ち込みました。

これは瀬戸内海全体でも同様の傾向です。



サワラの標識放流

サワラ資源を増やすため、香川県ではサワラの種苗放流を実施しています。(社)日本栽培漁業協会屋島事業場で生産された種苗を、香川県栽培漁業センターや漁業協同組合で全長10cm程度まで中間育成を行った後に放流しています。この放流の効果を調べるため、種苗には焼印や尾鰭カットの外部標識、または耳石への色素沈着を利用した内部標識を装着して放流しており、放流後の移動などの把握に努めています。

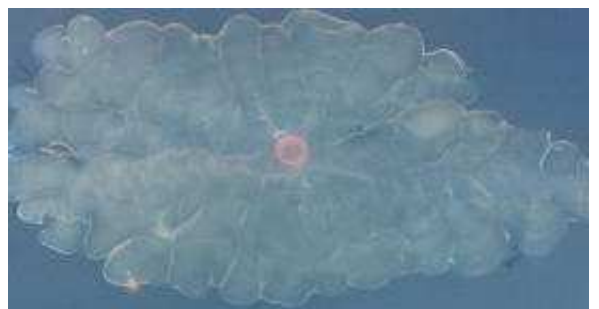
【標識のいろいろ】



尾鰭カット標識



焼印標識



耳石への標識(中心部の赤色)